

2019年7月1日

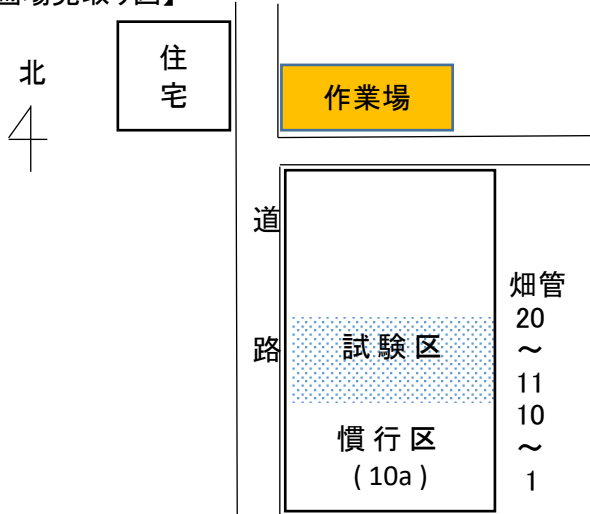
愛知県JA愛知みなみイエローキング栽培におけるネバリン試験調査報告書

日本肥糧株式会社

1. JA指導担当者;JA愛知みなみ田原営農指導センター S担当
2. 場所;田原市神戸町
3. 生産者名;M様
4. 作目;メロン、品種「イエローキング」
5. 耕種概要;
 - ①圃場面積;20a露地マルチ栽培
 - ②施肥日;2019/2/2
基肥は試験区、慣行区と同じ

試験区(10a)	慣行区(10a)
ネバリン 100kg	(無施用)

【圃場見取り図】



【定植日】

2019/2/27 定植本数500株/10a
株間70cm
畝幅250cm
ベッド幅160cm、長さ35m
マルチ栽培、4本仕立て
灌水チューブ1畝に1本

【交配】

2019/4/9 交配日は同じ

【収穫】

5月20日頃から収穫予定

【生育の状況】

- ①2019/3/20(水);生育初期はネバリン区の方が草勢旺盛。
- ②2019/4/19(金);交配後は両区同じ。順調!
- ③2019/5/7(火);生育順調、生育差なし。(両区ともガリ症状は出ていない。)
- ④2019/5/18(土);収穫調査。
- ⑤2019/5/31(金);根部調査。

【栽培中の草勢の状態】



試験区(5/18撮影)



慣行区(5/18撮影)

6. 収穫調査の結果

5/18(土);1畝の収穫適期のものを生産者が収穫し、これより15個体の重量を比較した。



【収穫調査の結果】

「イエローキング」の収穫物を測定した結果、試験区計18.84kg、慣行区計15.72kgで試験区でバラツキが小さく、平均値は試験区1.26kg、慣行区1.05kgで試験区が20%増加しており、区間に5%レベルで有意差が認められた(t検定)。

【根部調査】



試験区(5/31撮影)



慣行区(5/31撮影)

試験区と慣行区の株元の断面を見ると、試験区では細根が多く見られたが、慣行区では細根よりも太い根が観察された。

試験区と慣行区の根部を3株ずつ掘り取ったが、収穫期で灌水量が少なく、土が乾いていたため、特に試験区ではほとんどの細根が採取できなかった。



試験区と慣行区の根部比較(5/31撮影)

【収穫後の土壌養分の状態】

6月13日に土壌を採取し、土壌分析結果を表に示しました。

表. イエローキング圃場の土壌分析結果(M様)

	pH(H ₂ O)	EC (mS/cm)	無機態 チツソ (mg/100g)	推定CEC (meq/100g)	交換性石灰 (mg/100g)	交換性苦土 (mg/100g)	交換性加里 (mg/100g)	塩基 飽和度(%)	有効態 リン酸 (mg/100g)
試験区	6.33	0.24	1.5	8.9	155	47	30	96	41
慣行区	6.48	0.12	0.6	8.4	146	40	31	93	38

コメント; 根部掘り取り時にマルチを剥がし、約2週後に土壌を採取しているため、降雨により無機態チツソと加里が若干流亡している状態ですが、石灰は適量で、苦土、カリは多い傾向がありました。pHは適正で、有効態リン酸も適量であり、塩基バランスも良好な状態であった。

以上